

第2種基礎研究 を軸に本格研究へ

Integration
for Innovation
抽象から具体へ

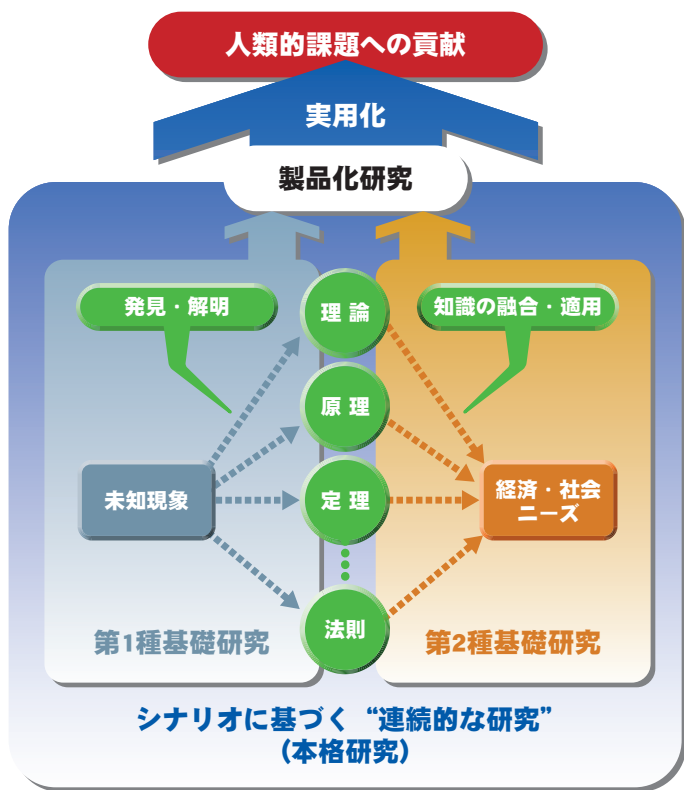
独立行政法人
産業技術総合研究所
ホームページ <http://www.aist.go.jp/>



独立行政法人産業技術総合研究所は、

1. 新産業領域創生のための先端的研究
2. 政策ニーズのための長期的研究
3. 科学基盤研究

を推進します。



現況下における高度化・多様化、かつ急速に変化する経済・社会ニーズに対応するためには個別の科学的知識では限界があり、細分化された個々の知識領域を融合する研究が重要です。

独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)の全ての研究ユニットは、幅広いバックグラウンドを有する研究者間のシナジー効果と、異分野知識間の融合による技術革新を達成するため、シナリオから派生する具体的な研究課題に分野の異なる研

| 定義 | 活動 |
|--|-------|
| 「第1種基礎研究」 未知現象を観察、実験、理論計算により普遍的な理論(法則、原理、定理など)を発見、解明、形成するための研究をいう。 | 発見・解明 |
| 「第2種基礎研究」 特定の経済的・社会的な必要性(ニーズ)のために、既に確立された複数の普遍的な知識(理論、法則、原理、定理など)を組み合わせ、観察、実験、理論計算を繰り返し、その手法と結果に規則性や普遍性のある知見および目的を実現する具体的道筋を導き出す研究をいう。 | 融合・適用 |
| 「製品化研究」 第1種基礎研究、第2種基礎研究及び実際の経験から得た成果と知識を利用し、発明された新しい材料、装置、製品、システム、工程、サービスの事業化可能性を工学的かつ社会経済学的アプローチで具体的に検討する。 | 実用化 |

究者が幅広く参画できる外部機関も含めた連続的な研究開発体制を確立しています。

産総研では、未知現象より新たな知識の発見・解明を目指す研究を「第1種基礎研究」、経済・社会ニーズへ対応するために異なる分野の知識を幅広く選択、融合・適用する研究を「第2種基礎研究」と位置づけ、「第2種基礎研究」を軸に、「第1種基礎研究」から「製品化研究」にいたる連続的な研究を「本格研究」として推進しております。